

技術、芽吹き進化へ

2010年の名目GDPで中国に抜かれ世界第3位に後退した日本。かつての輝きを取り戻すカギとなるのが、太陽電池や二次電池、次世代自動車、バイオ、創薬などの産業分野だ。これらはすべて西日本

本エリアに根をはり確実に枝葉を広げている。一つひとつが成長し、森のようにならなければ日本再生は飛躍的に加速する。将来を担う各分野の現状をまとめた。(6、7、8面で掲載)

国内外で需要急拡大

太陽電池(関西)



2010年に国内出荷量が前年から倍増した太陽電池、補助金の復活や固定価格買取制度のスタートで普及が加速した格

好だ。そのため、関西に生産拠点を持つ国内メー

カの多くも需要拡大に

対応するため、投資を活

用化させている。

年産200GWPのセル生産ラインの増設を決定した。そ

のほか、三洋電機が二色

の浜工場(大阪府貝塚市)と島根三洋電機(島根県雲南市)、カネカが

カネカソーラーテック

(兵庫県豊岡市)で相次

い設備を増強、京セラ

も今年度に新たなセル生

産拠点として野洲工場

(滋賀県野洲市)を立ち

上げた。

しかし、活況を呈して

いるのはも国内市場だ

けではない。太陽光発電協会によると、輸出量も

前年から1.6倍に拡大

しており、今後も欧米を中心導入が加速するこ

とが予想される。そのた

め、各社とも海外拠点を

強化している。シャープ

が英国と米国で、三洋電

機がハンガリー、京セラ

がチエコと中国で相次い

でモジュールの生産増強

に乗り出した。さらに新

たたばえ国内トップの

企業・会社化したバナ

ソニクは、英日の住宅

向けに太陽電池の設置を

進めている。

たな事業スキームに着手

を買収した。また、三洋

電機を子会社化したバ

ナソニクは、英日の住宅

向けに太陽電池の設置を

進めている。

たな事業スキームに着手

を買収した。また、三洋

電機を子会社化したバ